ケース 19　真珠の６次産業化

キーワード：地域活性化　真珠　６次産業化

１　学習内容

地域の特産品の発展を目指すビジネスの取組

２　学習目標

特産品の発展を目指すビジネスの取組の事例を通して、その特徴や在り方について理解する。

３　学習指導要領において対応する科目、単元および学習内容

「ビジネス基礎」

⑵　ビジネスとコミュニケーション

ア　ビジネスに対する心構え

ビジネスマナーの意義や必要性について理解させるとともに、挨拶、礼の仕方、 電話応対、来客応対など基本的なビジネスマナーを習得させる。また、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行う上での望ましい人間関係を構築することの意義や必要性及び倫理観、責任感、協調性などの豊かな人間性、自己責任や社会貢献の意識などビジネスに対する望ましい心構えや考え方について理解させる。

「マーケティング」

⑴　現代市場とマーケティング

ア　現代市場の特徴とマーケティングの発展

我が国における生産・流通・消費の動向、人口動態など市場環境の変化、消費者志向や社会志向などマーケティングの考え方や内容の変化及び様々な分野でマーケティングが重要となっている現状について理解させる。また、消費者保護や環境問題への対応、法令遵守など、現代市場における企業の社会的責任について理解させる。

「商品開発」

⑵　商品の企画

イ　商品開発の方針とテーマの決定

商品のライフサイクルや競争上の位置付けを明確にして基本的な商品開発の方針を決定すること及び商品のカテゴリーと標的市場などを整理して開発する商品テーマを決定することについて理解させる。

４　評価の観点

・真珠養殖による経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、自己責任や社会貢献の意識などビジネスに対する望ましい心構えや考え方について理解している。　【知識・理解】

・真珠販売を通して、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。　【思考・判断・表現】

・地域活性化の方法について思考を深め、適切に判断し、導き出した考えを表現している。　【思考・判断・表現】

事例　ケース 19　真珠の６次産業化

有限会社土居真珠
愛媛県宇和島市三浦西 5121－9
代表取締役 土居 一徳
http://www.doi-pearl.co.jp/

（会社沿革）
昭和 32 年　初代土居延徳(のぶのり)氏が宇和島市三浦においてアコヤ貝の採苗を目的に創業。
昭和 37 年　真珠養殖開始。
昭和 62 年　真珠加工販売部門設置。
平成 17 年　真珠養殖体験ツアー開始。
平成 21 年　パールパウダーを使った化粧品の共同開発・販売。

（会社概要）
宇和島産真珠のブランド化を目指し、真珠アクセサリーの販売店を営む。店では、真珠の養殖体験ツアーを開催するなど､宇和島真珠のアピールに取り組んでいる｡またアコヤ貝を砕いた｢パールパウダー」を独自に開発。これを用いた化粧品「花真珠シリーズ」をはじめ、新しい商品・サービスを市内の企業とともに開発・展開している。

初代　延徳の養殖事業の開始

昭和 32 年（1957)、宇和島市三浦の土居延徳（のぶとく）は、アコヤ貝の稚貝の採苗を始める。これが土居真珠の歴史の幕開けとなる。その当時、三浦地区では、県外の会社が真珠養殖は始めていた。 収入の無かった１年目を乗り越え、養殖事業２年目を迎えた延徳の養殖場は、たくさんの稚貝で溢れた。養殖は天候や潮の流れに左右されるため、年によって生産量は大きく変わる。ザル一杯で１万円の値が付いた。しかも取引はすべて現金。100 軒の中で、年収が 20 万を超える世帯は５軒あるかどうかという時代に、延徳の手元には 300 万円が残った。やがて「三浦の土居は、がいな（宇和島の方言：すごいという意味）奴だ」と言われるようになる。

そのころ愛媛県の水産課が真珠養殖に着目し、三重県や和歌山県などに先進地視察を始めた。多くの真珠関係者が視察に参加する中、県は延徳に優先的に先進地視察を依頼してきた。始めたばかりとは言え、確かな技術と目を持つ延徳に、少しでも多くの情報を吸収して欲しいとの思いからだった。三重や和歌山などの先進地視察から帰ってきた延徳は、愛媛県内の各漁協を回って報告会を行った。こうして愛媛県の真珠養殖技術は着実に地域産業として向上していった。

しばらくすると、全国各地の真珠養殖漁場で、異変が見られるようになった。それまで真珠業界をリードしてきた漁場の生産量が、軒並み落ち始めたのだ。延徳が視察に訪れた三重県五ヶ所湾の内出漁港も生産量が落ちた。その原因は、漁場が都会に近かったこと、真珠漁場の隣でハマチの養殖をしていたことが考えられた。真珠養殖とハマチ養殖の漁場をできるだけ離す必要があると考えた延徳は、県の水産課に対し、真珠とハマチ双方の漁場契約を今すぐ見直すように訴えた。この頃、真珠養殖とハマチ養殖の漁場が近いと海がダメになる、ということは漁業関係者の間では常識となりつつあった。しかし､期待していた成果は全く得られなかった。

昭和 30 年代中頃までは、真珠養殖は大手真珠養殖会社が独占しており、地元養殖業者はどこも母貝の養殖だけを行っていた。当時、真珠の養殖は県の許可制だったため、大手真珠会社は地元養殖業者に真珠養殖の許可を出させたくなかった。しかし県は真珠産業の育成には、地元の母貝養殖業者に真珠養殖技術を身に付けさせる必要があると考え、昭和 37 年（1962）に真珠製造の「第一次許可」を実施。宇和島地区で真珠養殖が始まった。

昭和 54 年（1979）、漁業後継者が集まり三浦漁協青年漁業者協議会が結成された、全国的に漁場の荒廃が進んでおり、協議会でも「健全な漁場の確保」というテーマを掲げ、積極的な活動を展開した。漁場荒廃の要因としては、真珠養殖自体の「密殖」に加え、魚類養殖と真珠養殖が同じ漁場を使うことの弊害が指摘されていた。当時の魚類養殖はすさまじい勢いで成長しており、地域としても魚類養殖を一方的に規制することはできなかった。漁場を共有しつつ、健全な養殖活動を維持することが大きな課題となった。また、高度経済成長のゆがみから、「獲れるときに獲れるだけ獲る」というような間違った競争意識が生まれていた。

真珠養殖から加工・販売への挑戦

昭和 62 年（1987）に本格的な真珠加工販売部門を立ち上げ、土居真珠のもう一つの柱を立ち上げる。質の高い真珠を作るには、「①漁場」と「②技術」と「③母体＝母貝」の３要素が必要だとされてきた。これに「④管理」を付け加える。「漁場」「技術」「母体＝母貝」が完璧でも、その後の「管理」を怠ると良い玉はできない。母貝が玉を育んでいく過程での生理状態の善し悪しが玉の出来に影響を与える。生理状態が悪い時期に育った玉は、真珠が「ぼけたような輝き」になるという。現在の真珠づくりは、これら４要素を完璧にすることが求められている。

４要素の一つ「母体＝母貝」が深刻なダメージを受けたことがある。平成６年（1994）秋に起こったアコヤ貝の「異常へい死」だ。その前兆は宇和島湾の赤潮となって表れた。この年の赤潮は、最初に海面が赤くなり、次に真っ黒に変色する。それがやがて牛乳のような白色なり、最後は一気に透明度が高まり、青っぽいスプライト色になったという。同じ時期に宇和島市の南にある愛南町の柏崎で、異常へい死が始まった。翌年の平成７年（1995）には、内海の由良（ゆら）半島全体の南側に広がり、やがて北側、そして下灘（しもなだ）湾に広がっていった。平成８年（1996）には、ついに宇和島湾まで北上、その後も全国へと異常へい死が広がった。その後の研究により、平成 18 年（2006）ごろから、品種改良された病気に強い貝が使われるようになり、真珠養殖に復活の兆しが見え始めた。異常へい死勃発以来 10 年を要したのである。

真珠の新しい可能性を探る

事業のメインを養殖から販売へとシフトすることを考えており、真珠にはどんな可能性があるのかを見極めるために、真珠に関係するいろいろなものを組み合わせることを始める。宇和島を訪れた観光客に真珠養殖場を案内する「真珠養殖体験ツアー」もその一つだ。幸い土居真珠には、ツアーに適した土壌が備わっていた。ほかの養殖場に比べて長い筏、見学者を集めることができる建物。そして何より、見学客を自由に受け入れる社風が、ツアーを成功へと導いた。

このツアーが評判となり、平成 19 年（2007）に全日空のツアーに取り入れられる。そこで地域のスペシャリストとしてツアー参加者に地域の魅力を案内する「感動案内人」に任命された。宇和島市内では唯一の「感動案内人」だ。ほかにも一般顧客に真珠貝のオーナー（里親）になってもらう「パーリィ倶楽部」の運営、「パールジュエリーデザインコンテスト」への出品、真珠の粉を使った化粧品作り、そしてその化粧品を使ったご当地エステ「パールエステ」の開発など、次々と新しいことに挑戦していった。

特に真珠の粉を使った新しいものづくりには特別の感情を抱く。「自分たちのような真珠に関わる仕事というのは、自然の恩恵を受けてものづくりを行っています。これは必ず自然にダメージを与えているはずです。我々はその自然に恩返しをしなければならないと思っています。」真珠を採取した後のアコヤガイの貝殻の真珠層の部分を使い真珠の粉「パールパウダー」を開発した。パールパウダーの主成分の炭酸カルシウムとコンキオリンと呼ばれるたんぱく質が美容に良いと言われ、化粧品または食品などの材料に使用されている。「量としては微々たるものかもしれませんが、このような環境に配慮したものづくりの意識が広まってくれるといいですね。」

そしてそれらの取組が評価され、土居真珠のパールパウダーは愛媛県資源循環優良リサイクル製品に指定、愛媛県より「愛媛の誇れる企業 50 社」、経済産業省より「がんばる中小企業・

小規模事業者 300 社」に認定された。「不景気、不景気というけど、当社の場合、真珠が儲かるから参入したわけではないし、祖父が真珠養殖を始めた頃とそんなに状況は変わらないと思うんですよ。景気が悪いといっても、ご飯は食べられているし。まだやっていないこともたくさんあります。そういう意味では、真珠業界が成長する可能性はまだまだあると思うんですよ。」と、直接事業には関係ない"遊び"の分野でも、真珠にとことんこだわっている。

環境に配慮したものづくりを目指して

養殖筏にイルミネーションを取り付けた「海のほたる」や養殖場の「ライブカメラ」だ。ライブカメラは、一徳がアメリカ留学時にインターネット環境の整備が事業拡大に不可欠と実感し、取り付けたものだ。宇和島市の三浦地区は道路に信号も無い海岸沿いの田舎町。一徳が宇和島に帰省した時には、もちろん会社周辺にブロードバンド環境は全くなかった。電話会社に問い合わせても環境整備の予定は「未定」だった。そこで署名を集めるなど、環境整備に向けた活動を始める。そんな中、宇和島市の市町村合併事業の一環として、宇和島市内の公共施設を光ファイバーで結ぶという話を耳にする。それまでに集めた署名と一緒に、光ファイバーの民間への開放を陳情したところ、その提案が認められ、モデル地区として一徳の住む三浦地区にブロードバンド環境が整備された。

土居真珠の事業の核は真珠にある。真珠そのものに加え、真珠に関係する全てのものから"可能性"を掘り起こすことで、真珠業界を活性化していくことを目指している。「真珠業界全体が生き残っていくことが大切で、みんなが生き残っていける組織やシステム作りが必要だと思います。昔のやり方だけではなく、時代にあったやり方に変えていくべきだと。」若き経営者の挑戦は始まったばかりだ。

(参考Ｗｅｂ)
有限会社　土居真珠　〈 http://www.doi-pearl.co.jp〉
「がんばる中小企業・小規模事業者 300 社」〈http://www.meti.go.jp/press/2013/12/20131225005/20131225005.html〉
愛媛県庁　〈https://www.pref.ehime.jp/h30100/kigyo/〉

2016/6/24 資料作成

ワークシート

ケース 19　真珠の６次産業化

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　新しい産業を起こすためにどのような努力があったか述べなさい。　【知識・理解】

2　真珠の新しい可能性を探るためどのようなことを行ったか述べなさい。　【知識・理解】

3　環境に配慮したものづくりを目指して、どのような活動を行ったか述べなさい。

【知識・理解】

4　宇和島の魅力とはどのようなことか、調べて述べなさい。　【思考・判断・表現】

5　真珠そのものに加え、真珠に関係する全てのものから"可能性"を掘り起こすことで世界で勝負できる街となるはずである。時代にあったやり方に変えていくべきとあるが、どのような事ができるか、考えてみよう。　【思考・判断・表現】

ワークシート　解答例

ケース 19　真珠の６次産業化

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　新しい産業を起こすためにどのような努力があったか述べなさい。　【知識・理解】

アコヤ貝の稚貝の採苗を始めるが養殖は天候や潮の流れに左右されるため、年によって生産量は大きく変わる。養殖事業を行うと真珠業界をリードしてきた漁場の生産量が、軒並み落ち始めたのだ。これは、真珠漁場の隣でハマチの養殖をしていたことが考えられた。漁場を共有しつつ、健全な養殖活動を維持することが大きな課題となった。

2　真珠の新しい可能性を探るためどのようなことを行ったか述べなさい。　【知識・理解】

○「真珠養殖体験ツアー」
○地域のスペシャリストとしてツアー参加者に地域の魅力を案内する「感動案内人」
○パーリィ倶楽部」の運営
○「パールジュエリーデザインコンテスト」への出品
○当地エステ「パールエステ」

3　環境に配慮したものづくりを目指して、どのような活動を行ったか述べなさい。
【知識・理解】

○養殖筏にイルミネーションを取り付けた「海のほたる」
○養殖場の「ライブカメラ」
○三浦地区にブロードバンド環境が整備

4　宇和島の魅力とはどのようなことか、調べて述べなさい。　【思考・判断・表現】

○真珠が日本一
○魚類養殖、牛鬼、闘牛、宇和海など

各自の意見

5　真珠そのものに加え、真珠に関係する全てのものから"可能性"を掘り起こすことで世界で勝負できる街となるはずである。時代にあったやり方に変えていくべきとあるが、どのような事ができるか、考えてみよう。　【思考・判断・表現】

各自の意見